

# 令和8年度 文学部 歴史学科

## 学校推薦型選抜 総合問題

### ○解答例・採点基準

1

#### (1) 解答例

墓はもっぱら、死者を死後や腐敗した存在としてではなく、また、死者を新たな独立した来世の成員として表現するものでもなく、生前の姿のまま記憶するものであった。記念碑は過去の記憶を表現するものであった。人は生きている間に記念碑を計画し、発注し、または建設したり、あるいは遺言でそのための手配を残したりすることができた。記念碑は多様な形と形態をとった。墓石や墓は、像、建物、基礎、文学作品などで補完された。このような記念碑を計画する際に、人はある程度の程度で死について考え、自身の死すべきさだめと向き合っていた。哲学的な議論や占星術、運命への信仰は、一部の人々にとって、自身の死や愛する者の死に向き合うための準備を整えるのに役立ったかもしれない。

#### (2) 採点基準

多神教世界であった古代ローマ帝国についての問いである。次の解答例のような内容を含んだ記述が求められる。

キリスト教化される以前の古代ローマ帝国は、多神教世界であり、あらゆる神々が存在した。また、下線部の直前には、belief in と書かれていることから、下線部の単語は、何らかの信仰対象であったことが分かる。以上のことから、ここで下線部の名詞が大文字で書き出されているのは、一般名詞としての運命ではなく、運命をつかさどる神々を指しているのだと考えられる。

2

#### (1) 解答例

大戦争の起きた理由を1つに絞り込むことなどできない。そして1914年の戦争は、いくつかの原因が重なった結果であった。20年もの間、ヨーロッパでは不安感が高まっていた。列強は落ち着きを失い、互いに疑念を抱くようになり、中でもドイツは自国をライバルの手の届かないところに置けるような大胆な一手がないかと真剣に考えるようになっていた。1870年にフランスに勝利して以来、ドイツは非常に強大で豊かな国となり、世界中に商業を広げ、イギリスやフランスのような帝国を築くことを熱望していた。しかし、その計画に着手したのは遅すぎ、近隣諸国を犠牲にしてしか成功はあり得なくなっていた。したがって、ドイツの野心は、常に危険の源泉となっていた。

#### (2) 採点基準

第一次世界大戦の日本への経済的側面に関する影響についての問いである。次の解答例のような内容を含んだ記述が求められる。

ヨーロッパへの軍需品輸出などで大幅な輸出超過となった。国内では造船業・鉄鋼業などの工業が発展し、大戦景気がおこった。一方で米価の急上昇により、米騒動が起きた。戦後は輸出減少により、深刻な不況（戦後恐慌）に陥った。